静岡・土橋（つちはし）遺跡

1 所在地　静岡県菊川市（旧菊川町）土橋字西軒
2 調査期間　一九九六年（平8）一〇月～一九九七年四月
3 発掘機関　菊川町教育委員会
4 調査担当者　塚本和弘
5 遺跡の種類　集落跡
6 遺跡の年代　弥生時代～中世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、牛渕川と菊川の間にあたる横地地区土橋の県道浜岡線沿いの天神社周辺に位置する。調査区は道路を隔てて東西約六六m、南北一八三m、調査面積は約四〇〇〇㎡。遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期までの集落と古墳時代後期の居館、さらに中世の屋敷地を検出した。今回の調査範囲では屋敷地の約二〇%を発掘し、方形溝・井戸・土坑、柱穴などを検出した。井戸は全て素掘りで、山茶椀・ヒョウタンが出土している。柱穴は多数検出したが、掘立柱建物としてまとまるものはなかった。

方形溝SD三は、南北二六m東西五五mの屋敷地の四周を区画する溝で、幅二～九m深さ約一mの規模を有する。溝の中で最も良好に残る北溝は、幅四～九mと規模も大きく堆積状態は安定し、沼地であったと考えられる。西溝は幅二～三mの規模で南に向かって流れ、下流付近から北溝の合流地点までは、両岸に杭列を設けて護岸している。

SD三の下層からは、平安時代から鎌倉時代初頭にかけての多量の山茶椀をはじめ、中国製青磁・白磁、常滑・渥美産陶器などの土器類のほか、曲物・箸・下駄などの生活用具、形代類や呪符・笹塔婆などの呪術資料（但し、明瞭な墨書なし）、信仰に関係する遺物、ヒョウタンやキカラスウリの種などの植物遺体などが出土している。なお、この溝は、出土遺物からみて一三世紀前半には完全に埋没したと考えられる。

木簡は方形溝SD三のうち、屋敷地の北側を区画する北溝から三点出土した。このほか、人面を描くだけで文字を記さない人形も出土している。また、墨書土器には、山茶椀底部外面に「人」「十」「廿」「卅」などの文字や梵字、花押などが書かれたものがある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「大祓男人形」　332×64×4　061

(2)　「人」　102×17×3　061

(3)　□　(91)×24×4　061

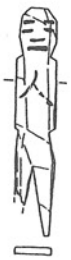
(1)(2)は人形に文字を記したもの。ともに板目材で、(1)は墨で上端部に烏帽子・人面が描かれ、体部に文字を配置する。(2)は小型の長方形の材の左右に切り込みを入れ、頭部から体部を造り下端は大きく削って足部分を設けている。人面は簡略化して描かれ、体部中央付近に「人」と墨書している。(3)の文字は梵字か。卒塔婆の一部であろう。下端は欠損する。

9　関係文献

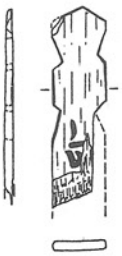
菊川町教育委員会『土橋遺跡』（菊川町教育委員会埋蔵文化財報告書六三、二〇〇一年）

（塚本和弘）

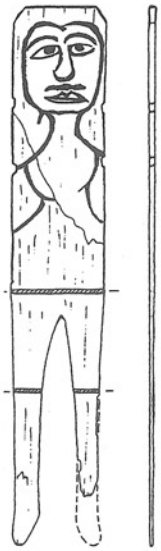
(1)



(2)



(3)



人面のみの人形